

2023年度 通期 決算説明会 質疑応答 (要旨)

Q1) 航空事業における第4四半期(1~3月)の実績について、営業利益が業績予想から増加した主な要因を教えてください。

- A1) ・ 第4四半期は旅客事業の収入が計画よりも上振れたことに加えて、コロナ禍で実施していたマイルの有効期限延長措置を終了したことによるマイルの失効収入などにより、営業利益は業績予想から+240億円上りました。
- ・ 売上高・営業費用の主な計画差異は以下の通りです。
[計画差異の内訳(航空事業、第4四半期(1~3月))]
売上高：+245億円
(国際旅客+50億円、国内旅客+65億円、Peach+50億円、マイル関連など+100億円)
営業費用：+5億円
(整備費用+130億円、燃油費など▲125億円)

Q2) 円安が今後も続いた場合の、業績への影響を教えてください。

- A2) ・ コロナ禍以降、国際旅客を中心に海外販売の構成比が高まっているため、外貨不足のボリュームはコロナ前と比較して大幅に縮小しています。
- ・ また、2024年度の外貨不足分については概ねヘッジを完了しているため、今年度における為替の変動に伴う業績への影響は極めて限定的です。

Q3) 国際旅客事業における計画前提では、イールドや供給量の回復をどのように織り込んでいますか。

- A3) ・ 国際旅客は特に北米・アジア路線を中心に、他社の供給量の回復により需給バランスが緩和し、2024年度のイールドは前年と比べて低下する見通しです。
- ・ また、これまでは三国流動の需要が好調でしたが、足元では高単価なローカル流動の需要が堅調に回復しています。今後はローカル流動のシェアを高めながらイールドを下支えする計画としています。

Q4) 国際貨物事業について、2024年度の計画の前提を教えてください。

- A4) ・ 半導体関連や自動車関連の需要の回復により、第3四半期以降は上期と比べて重量が増加する見通しです。また、単価は年度としてコロナ前比の約2.1倍となる計画です。

Q5) 2025年度の営業利益目標「2,000億円以上」について、どのように達成していきますか。

- A5) ・ 中期経営戦略のリリース以降、ロシアウクライナ問題の長期化やPW エンジン点検の影響などにより、旅客事業の生産量の増加ペースが緩やかになっています。一方で国際旅客はインバウンドの継続的な増加や日本発レジャーの回復を見込み、中期経営戦略の想定を大幅に上回る高いイールドが続く見通しです。2025年度に向けて中大型機を中心に機材を増強し、生産量を拡大させながら、収益向上を目指します。
- ・ また NCA の連結化による貨物事業の収益機会の拡大などにも適切に対応していきます。

Q6) 株主還元に対する考え方を教えてください。

- A6) ・ 2023年度は利益が計画を大幅に上回ったことをふまえて、前期の配当は以前発表した1株当たり30円から50円へと増配します。
- ・ また安定的かつ継続的な配当を行う方針のもと、今期は1株当たり50円の配当と予想します。
 - ・ 中期的には1株当たりの純利益(EPS)を向上しながら、株主還元の充実を目指していきます。

以上